話題●～ワォ!! 米国民より低い浜松市民喫煙率9・7%～
セレステ博士 浜松市民のアドボカシー活動に驚く!

加藤一晴　政令市浜松の健康政策を支援する会・代表理事

はじめに

セレステ　L・アリントン女史は、ジョージワシントン大学の政治学と国際問題の准教授です。研究テーマは「法と社会の変化、法曹、社会運動、民主的ガバナンス、メディア、比較政策プロセス」であり、韓国と日本の地域を対象にした研究をしています。主に政策と法の解釈を中心とした様々な研究を行い、多くの論文を掲載されています。その中で、日本と韓国の政策の相違、社会活動の実践を知るために、来浜されました。実は、浜松に来たのは、公益社団法人地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター長の、中村正和先生からの推薦がありました。当然ながら、彼女の日本語のコミニュケーションは完璧でした。

5年ぶりの来日

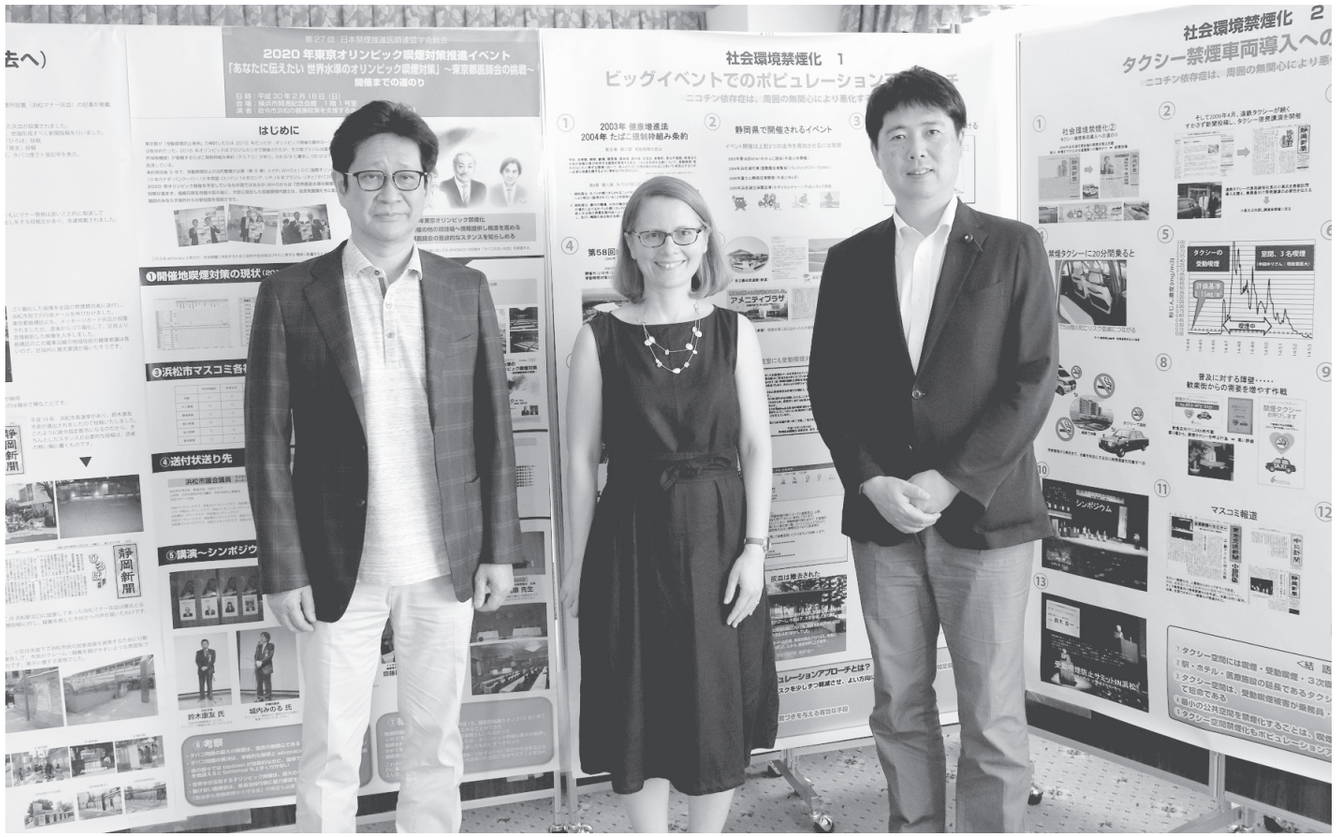
米国生まれですが、現在はドイツ在住とのこと。短期間の日本滞在では複数の取材計画があるようです。日本での拠点は東京のホテルに構え、5月21日（日）に来浜されました。前もってザ・ハマナコ最上階にインタビュー会場を用意しました。浜松駅まではJR新幹線で、その後JR東海線で2つ目の舞阪駅で出迎えました。

決して大柄ではないのですが、純粋な眼差しの中に洞察力を秘めた清楚な女性でした。まず、2008年から境内全面禁煙を実践している息神社を案内し、昼食は白焼きうなぎ専門店（宇奈貴）・食事処うふみ亭（鰻は好物です）。今回は政策面の視察でもあり、浜松市議会議員の稲葉大輔氏もお招きしました。

ザ・ハマナコ13F インタビュールーム

ホテル関係者に、これまでの6枚のポスター「浜松における喫煙対策推進」を掲示しました。23年掛けた浜松市の喫煙対策の静寂なる鳴動が一目瞭然でした。

「これを続けることで、地域住民の理解が深まり、市民レベルで健康意識も高揚しました。行政主導ではな



ザ・ハマナコ最上階（13F）特設インタビュールームで。
右から稲葉大輔氏（浜松市議会議員）、セレステ　L・アリントン女史（ジョージワシントン大学准教授）、筆者。

インタビュー特設会場のザ・ハマナコ

※ アドボカシー＝擁護や支持をすること。

く市民力の問題でしょうか?」。「素晴らしい市民活動ですね。米国のようです……」。

23年間継続している小学校喫煙防止教育、地元祭典禁煙化、浜名湖花博喫煙対策、国体会場受動喫煙対策、空港喫煙対策、JR浜松駅マナー灰皿撤去、東京オリンピック喫煙対策、飲食店禁煙化シンポジウム開催など、世論形成を背後に着実に進んでいる健康意識の高まりを、時系列で示したポスターに感動していました。中央からの指示ではなく、言わば、十分形成された世論を背後にした局地戦を実践しました。竹槍部隊でB29（爆撃機）に立ち向かうと言ったら言い過ぎでしょうか。

絶対数の論理

民主主義の原則は、多数決の原理と少数派の権利（Majority Rule, Minority Rights）を組み合わせることとされます。地域において、説得力や蓋然性を高めるには、事象の趨勢を提示することですが、成功体験を示すことが大切です。言わば「○人数が理解してくれて、上手くいったので、△△人にも協力いただきたい」。喫煙対策の具体例を例に挙げれば

①浜名湖花博来場者550万人と息神社祭典参加者3000人。

②広域自治体神奈川900万人と政令市浜松80万人。

③とげぬき地蔵尊高岩寺参拝者8000万人と息神社祭典参加者3000人を対比させました。更に、息神社祭典喫煙対策の礎として「定」を建てましたが、鎌倉鶴岡八幡宮の「定」と同じモデルであり、事前に鶴岡八幡宮社務所から使用許可を得たものです。

④浜松マナー灰皿撤去活動には、近隣基礎自治体の健康増進部門職員も招きました。

これらのように国内で先駆的と思われる箇所との共同作業により、地域住民の健康意識はさらに高まりました。これら23年間の受動喫煙防止活動により、市民喫煙率は9・7％まで低下しました。

セレステ　L・アリントン准教授
（ジョージワシントン大学）

研究テーマ：法と社会の変化、法曹、社会運動、民主的ガバナンス、メディア、比較政策プロセスに対し、韓国と日本とを地域的に焦点を当てている。カリフォルニア大学バークレー校（博士号）、ケンブリッジ大学：MPhil。プリンストン大学：学士号、マンスフィールド財団の日米未来ネットワーク。米韓学者・政策立案者ネクサスのメンバー。ハーバード大学：日米関係プログラムの上級研究員。プリンストン高等研究所の社会科学部のメンバー。GWの研究担当副学長室は、2021年の早期キャリア研究奨学生賞を授与。

稲葉大輔氏（いなば だいすけ）
浜松市議会議員（西区選出3期）

自由民主党浜松所属。1974年（昭和49年）3月25日、浜松市舘山寺町生まれ。48歳。静岡県立浜松北高等学校卒後、慶應義塾大学経済学部入学、同校卒業の後、株式会社東京ドーム勤務を経て、家業再生にホテル鞠水亭に就職。29歳のとき浜名湖えんため（環浜名湖の観光振興を考える会）を設立し、遠州灘天然とらふぐのブランド化、花と緑の浜松・浜名湖フラワーツーリズム、オープンガーデンツアー、フィルムコミッション、地域活性映画製作プロジェクト「天まであがれ！！」第2作、「書道ガールズ青い青い空」など、地域おこし、まちづくり事業を推進している。

セレステ博士と稲葉市議との対談

政策研究者と市議会議員との面談では、積極的に法整備をして支援する国家と、個人の道徳的判断に委ねる国家の違いが浮き彫りになりました。

セレステ博士は1990年以降、韓国と日本の政策立案をテーマに研究し、障害者の権利や種々のタバコ規制について、検討してきました。それによれば、韓国のより法律主義的な改革は、より強力な権利主張の選択を提供しています。

一方、日本は批准前に国内法を改正し国際条約と調和させます。国際的な規範の追求に遅れが出ますが、国民性の差なのかどうか、セレステ博士の研究は続きます。

セレステ博士の書かれた論文『マナーからルールへ　韓国と日本における法律主義的政策解決のためのアクティビズム』にヒントがあるのかも知れません。稲葉氏は「浜松には路上喫煙を禁止する条例がないが、街中で喫煙者を見かけることはありません。かなり健康意識が高いと思います」と答えました。

政策研究者（セレステ博士）と
市議会議員（稲葉大輔氏）との対談。

しかし若者中心に加熱式タバコの台頭があるので、筆者はその現状を何とかしたいと考えています。セレステ博士は、「その傾向は海外でも見られ始めていますね」と危機感を募らせました。

おわりに

FIFA World Cup や 2023 WORLD BASEBALL CLASSIC で、ベンチ・ロッカールーム・競技場での日本人選手やファンの対応は、世界中に驚きをもって伝えられました。別に罰則があるわけではありませんが、内に秘めたる道徳心・誇りや良心によるでしょう。

罰則の有無で左右されないのは、改正健康増進法になってからも、罰金や科料を納める人がいないということからも想像できます。日本人の国民性として、個人レベルの規範、道徳心や良心に基づいて行動することが多いと考えます。少なくとも浜松市民の健康意識は全世界に誇れるものではないでしょうか。